

ひやく しゃく かん とう 百尺竿頭

札幌市青少年山の家便り
第 10 号
平成 23 年 5 月 1 日 発行

野外施設部長 谷 山 正 司

“体験活動”を大切に！

この度の東日本大震災により甚大な被害を受けた被災地の多くの方々に、深く哀悼とお見舞いの意を表しますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、メディアを通して桜の開花のたよりが、東北地方から聞こえてきます。札幌では、まだまだ桜の開花とまではいきませんが、滝野すずらん丘陵公園内の木々の梢やまだ雪が残っている歩道の脇から春の息吹を感じる命を見つけると、何かほっとするというのか、活力のようなものを感じる今日この頃です。

私は、このような自然界のエネルギッシュな様子に接する度に、人間界、とりわけ子どもたちに、「元気、はつらつ」「逞しく」といった、本来の生き生きとした姿を見る機会が少なくなっているように思えるのです。どうしても自分自身の子も時代と比較することになってしまいますが、どう割り引いても最近の子どもたちは、生活体験や自然体験など、様々な体験が不足していると言わざるを得ません。

過日、このことを裏付ける実証的な資料を目にしました。

昨年(平成 22 年度)の東京都の調査によると、**子どもの歩く歩数が減っており、30 年前は一日 2 万 7000 歩あった子どもの歩数は、ここ 30 年で半減し、今回の調査では 1 万 3000 歩までになっている** ということです。デスクワークを常とする大人にとっては、万歩計で「1 日 1 万歩！」というのは、十分すぎる目標ではありますが、遊びや活動を”仕事“である子どもたちが、1 万歩程度という現実には、寂しさと同時に一抹の不安を感じてしまいます。

体験活動には、そこに参加する者同士が、一緒に考え、ルールを作ったり、他者との交流を深め人間関係を築いたり、問題を解決したりすることを通して、豊かな成長を育むことにつながります。

未来社会の担い手である子どもが、様々な変化に主体的に立ち向かい、強く生きるための、資質を身につけていくには、体験活動は、生活の知恵や判断力・行動力そして逆境に対する強さなど、すなわち“生きる力”を育む大切なものといえるのでしょうか。

私ども札幌市青少年山の家ができること、それは野外教育施設として生涯学習の観点から幼児からシルバー世代までの幅広い年齢層に楽しんでいただけるような体験活動プログラムがあるということです。

「自然に親しみ、自ら学ぶ（自然とふれあう）」
「友情を深め、仲間とともに働く（人とふれあう）」
「自分に挑戦し、強い心とたくましい身体をつくる（自分とふれあう）」

札幌市青少年山の家は、このような教育目標を掲げ、どの世代の皆様も充実した体験活動が実感できるような体験プログラムを準備をし、職員一同、ご来館を心よりお待ちしております。

5月の事業予定

◆第1回自然観察ハイキング～春の滝野を感じる

実施日：5月22日（日曜日）

対象：どなたでも（子どもは保護者同伴）

青少年山の家周辺の自然の森を自然観察ボランティアスタッフの案内で散策します。

小鳥のさえずりを聴きながら、春を感じてみましょう♪



[利用者アンケートより]

○施設設備もスタッフの方々の対応もとても良かったです。

○食事も毎回楽しみにしています。

▼備え付け機器の不調がないよう、日常の点検をして欲しい。

→ 日々の点検の実施、使用方法などの分かり易いご案内をいたします。

▼カメムシの発生が気になりました。

→ スタッフが入館前に各室内の点検および除去をしておりますが、全てを取り除くことは難しい状況です。今月にはカメムシ対策も含めて全館で害虫忌避剤散布を行うなど、皆様に快適にお過ごしいただける作業を実施します。

【植物豆知識⑦】

まだ雪の残る草地に一番最初に花を咲かせる植物と言えはフクジュソウ（福寿草：キンポウゲ科）を思い浮かべることでしょう。実はこんなに早い時期に花を咲かせるのには生きるための知恵が隠されているのです。福寿草は太陽の光を浴びている時だけ花を開くのですが、閉じている時の花の中は外気温よりも数度高い状況を保っています。その温かさに集まる虫たちが受粉（虫媒花）をしてくれるおかげで子孫を残すことができるのです。ライバルの少ないこの時期に花を咲かせ虫を寄せる仕組み、花の世界にもこんな工夫があるというのは不思議なものですね！



発行者：札幌市青少年山の家 指定管理者:財)札幌市青少年女性活動協会

住所 〒005-0862 札幌市南区滝野 247 番地

電話 011-591-0303 FAX 011-591-0394

URL <http://www.sapporo-yamanoie.jp>